



微生物ウィーク2025から展望するシンポジウム

ヒトの心身、社会、地球生態系を救う 小さくて大きなパワー

2025年

日時 **10月11日** (土)
13時～16時 (開場：12時30分)

開催方法

対面・オンライン開催
全国に配信

会場

日本プレスセンタービル10階ホール
東京都千代田区内幸町

アクセス 地図



ヒトの健康、異常気象、持続可能な生態系、食糧・エネルギーへの不安など人類の喫緊の問題に対処するため、今夏「微生物ウィーク2025」が6年ぶりに開催された。医、薬、農、理、工学分野の学会が学際的に連携し、論議した。人体の中の微生物、地球環境の中の微生物の働きと可能性について、ノーベル生理学・医学賞受賞者の大隅良典氏ら最先端の大学研究者リーダーから展望を聴き、ジャーナリストの視点も交え、論議を深める。

《主催者挨拶》藤野 博史 日本医学ジャーナリスト協会理事・西日本支部長

《司会》



高田 薫

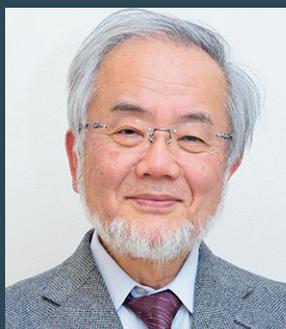
フリーアナウンサー

第1部 基調講演 (45分)

生体ガリサイクルする仕組み 『オートファジー』の機構の解明

～微生物の基礎研究から大きく広がった研究領域～

地球上に大きな存在量を占める微生物の多様な生存戦略と新たな応用の可能性を示す。オートファジー研究の回顧と展望。微生物同士は相互作用で生存し、地球上の生命は微生物との共生体として存在することの認識に言及。将来を展望する。



大隅 良典

東京科学大学・栄誉教授
大隅基礎科学創生財団理事長
2016年ノーベル生理学・医学賞受賞

※東京科学大学は2024年、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合して誕生した。

第1部 講演 (各25分)



『微生物ウィーク2025』開催が示したもの

～医薬・食品・農業の枠組みを超え、地球の環境保全、人類生存、生活の質向上に貢献する微生物機能～

大西 康夫 東京大学微生物科学
イノベーション連携研究機構長



環境・生態系を支配する微生物

～微生物の生き様を知る
イメージング技術「百聞は一見にしかず」～

野村 暢彦 筑波大学微生物サステナビリティ研究センター長
生命環境系教授



ヒト腸内環境と健康

～医学的見地から見る微生物研究の可能性～

山田 拓司 東京科学大学生命理工学院准教授
(株)メタジュン取締役副社長

第2部 パネルディスカッション (45分)

人類が抱える問題と微生物

～科学者とジャーナリズムの役割～

微生物とは何か。微生物のあつと驚く役割、可能性、学際的連携で進む微生物研究、微生物ものづくりの社会的意義などについて、会場からの質問を中心に論議する。

コーディネーター



藤野 博史



中村 弥和
西日本支部常任幹事

パネリスト

大隅 良典

大西 康夫

野村 暢彦

山田 拓司

参加
お申込み

【募集定員】会場50人、オンライン100人

応募方法は
①②のいずれか

①右記QRコード、(peatix・申し込みフォーム) <https://biseibutu-sympo.peatix.com>
または、②名前・所属を書き、下記E-mailからお申込み下さい。
オンラインURLを開催前日までに連絡します (Zoomで配信)

peatix申し込みフォーム▶



参加
無料



ホームページ

お問い合わせ
お申し込みは

特定非営利活動法人

日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部
〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-2-6-303

E-mail ▶ Mejawest@mejaw.jp

Web ▶ <http://mejaw.jp>

電話 ▶ 090-2082-9824 (藤野支部長)